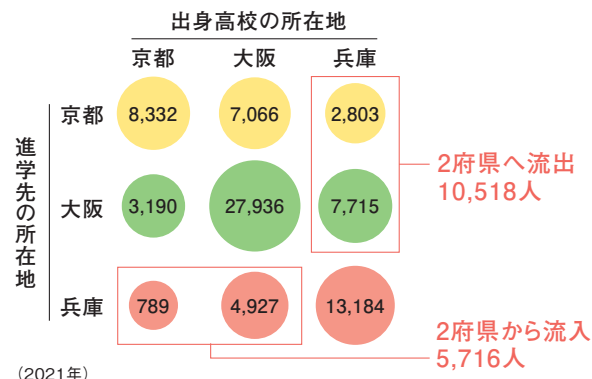
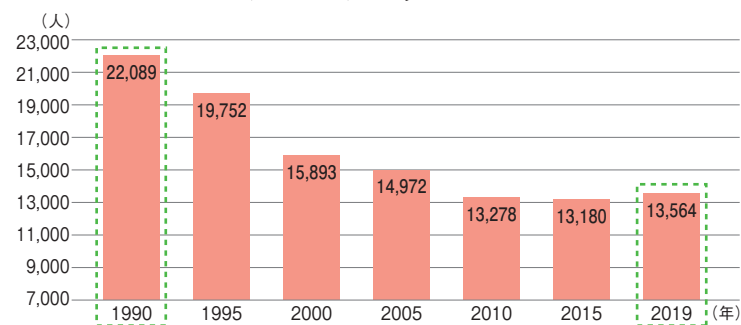


●大学都市神戸の現況

3府県間の流出入数

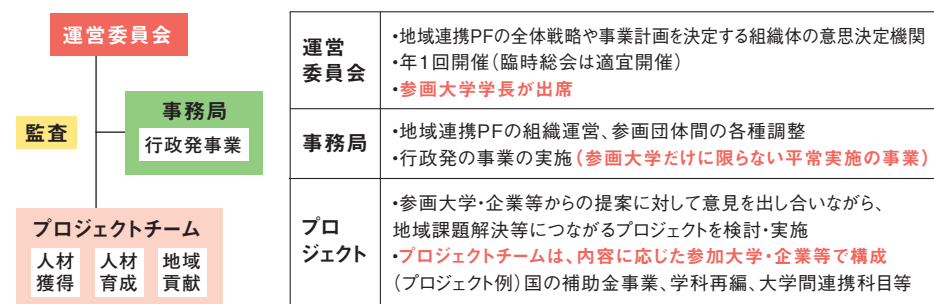


神戸市の18歳人口推移 1990年～2019年(約30年)で8,525人減



●地域連携プラットフォームの組織体制

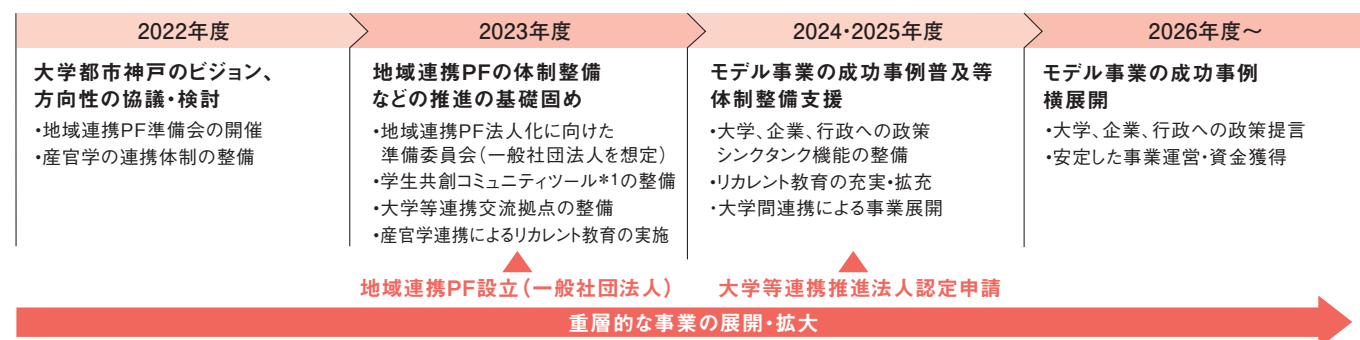
運営体制図



拠点のイメージ



●ロードマップ(案)



※神戸市作成資料より

三宮駅前にあるビルの一部を改修している。アクセスのよさを生かして、リスクリングのセミナーも開催したい(藤岡部長)。

市の考えに濱名学長も賛同する。「2006年に発足した、兵庫県内の大学で組織する『大学コンソーシアムひょうご神戸』は広域連携。一方、こちらは地域に根ざした取り組みを重視する連携だ。神戸は多様性を内包するグローバル都市で、産業は多岐にわたり、多くの企業が集まる。大学と本気で向き合おうという企業も多い。地域の特性に合ったWin-Winの関係を構築したい。」

2023年度、参加大学と共に具体的な組織体制等のルールづくりを進め、秋をめどにプラットフォーム設立をめざす。まずは、地元企業のニーズが高いリカレント教育から着手する予定だ。「スモールスタートで進め、その検証結果をふまえて、連携事業を拡充していく。県下の産学連携の参考となる神戸モデルの構築をめざす。少子高齢化、人口減少社会への対応に関しては、市と大学企業が一体となって取り組んでいくべきだと考えている。持続可能な神戸をつくり上げていきたい(藤岡部長)。」

*1 学生を対象とした地域貢献ボランティアや企業インターンシップなどの検索・応募、神戸市や企業等からの情報配信などが利用できる「BE KOBE学生ナビ」

地域連携で挑む!

人材流出を産官学で抑制 神戸市「地域連携プラットフォーム」始動

全国有数の大学都市ながら、若者の転出超過が課題となっている神戸市。市の将来を支えるグローバル人材の育成、定着をめざし、2023年に新たなプラットフォームを開設する。

神戸市企画調整局
産学連携推進担当部長
藤岡 健



関西国際大学
学長
濱名 篤

**産学の対話の場を設け
人材の育成と定着を促進**

市内に23もの大学・短大があり、約7万人の学生が学ぶ神戸市。全国有数の大学都市にもかかわらず、少子化には強い危機感を持つ。神戸市企画調整局・藤岡健産学連携推進担当部長は「神戸市の18歳人口は、30年前と比べて約40%も減少している。問題点はさらに2つ。1つ目は、大学進学時の流出超過。兵庫県内の大学進学率は高いが、実態として地元よりも大阪、京都の大学に進む高校生が多い。2つ目は、大学卒業時の転出超過。大学数が多いこともあり他府県から学生が集まるが、卒業時に県外に出てしまう。近年はこのような傾向が加速している」と説明する。

藤岡部長は、学生の志望と雇用のミスマッチが、その要因の1つではないかと分析している。「神戸の産業構造が学生のニーズに合っていないのか、大学が提供する教育が神戸の産業に合っていないのか、要因はいろいろあるだろう。いずれにせよ、大学と産業界のより緊密な連携の必要は感じていた。」

もともと神戸市は大学との連携に熱心で、コロナ禍前には市と大学との連携事業は年間500件を

超えていた。事業を通じて企業と大学が対話する機会も少なくなかったが、人材育成という大きなテーマでは、これまで話し合ったことがなかったそうだ。神戸市が掲げるマスタープラン「神戸2025ビジョン」には、大学との連携強化も含まれている。これもふまえて市が現在準備を進めているのが「地域連携プラットフォーム」だ。

**KPIを設定し
大学、企業の意識を共有**

2022年に設けられた準備会には、市内の複数の大学・短大、企業に加え、神戸商工会議所などの経済団体も参加している。市はこの会議の中で出た意見を基に、プラットフォームで取り組むテーマを3つにまとめた。

1つ目は「優秀な人材の獲得」。大学の情報・魅力等を積極的に発信し、大学都市神戸のブランド力向上を図る。2つ目は「人材育成と定着」。地域の学習ニーズをふまえた教育プログラムを提供し、地域の未来を担う人材の育成・定着をめざす。3つ目は「地域社会への貢献」で、持続可能な地域社会の実現に向けて、産官学共創、交流を促進する。

さらに準備会では、これらのテーマに関する具体的な取り組み案と共に、KPIの設定に向けた意見交換を行った。例えば、「人材育成と定着」の施策の一つである「学生の地域活動促進事業」は、「2028年度までに実施回数累計100回、参加学生延べ3000人」を達成目標値とする意見が出ている。

準備会のメンバーである関西国際大学の濱名篤学長は「市内の大学は、学生募集の観点から見ればコンペティターだが、それを乗り越えて、神戸で学ぶことや働くことの魅力を強化しないと、地域も大学も共倒れになるという危機感を持っている。今はまだ事業案が列挙されている状況だが、成果指標が設定されているので、大学と産業界で目標が共有しやすい。KPIによって、互いの意識が合おうだろう」と期待する。

**三宮のまちづくりと
連動し拠点を整備**

プラットフォームの拠点となるスペースも、都心三宮エリアに開設する予定だ。「大学と企業、行政が神戸市を支える人材育成について持続的に対話することが重要だ。関係者の交流拠点として、今、

取材・文/本間学